

学生島活プロジェクト

小坂橋花（大橋ゼミ）、片山榛菜・谷川明日香（木村敏文ゼミ）、千賀有紗（中桐ゼミ）、
大寺ちひろ・高杉優里・丹葉あい子・原小羽（安枝ゼミ）、太田尚孝

キーワード：空き家、改修、DIY、家島

1. 概要

1.1 本プロジェクトについて

本プロジェクトは、2024 年度特別 FW「空き家再生実践演習」（1 単位）の一環としておこなった。本特別 FW は、3 年生以上の学生であれば、系やゼミに関係なく履修できる。授業の目的は、空き家が社会問題化している家島をフィールドに、空き家改修の実体験を通して、空き家の再生の実情を知るとともに、必要な技術や知識を実践的に学ぶことである。2024 年度の参加者は 8 名であった。

1.2 家島（いえしま）とは

家島は、瀬戸内海東部の播磨湾に浮かぶ 44 の島からなる諸島である。そのうち家島本島、男鹿（たなが）島、坊勢（ぼうぜ）島、西島の 4 つの島が有人島であり、人口は合わせて 4500 人ほど、このうち約 2200 人が家島本島に住んでいる。（家島コンシェルジュ HP¹⁾より）

1.3 家島コンシェルジュとは

家島コンシェルジュは家島の暮らしと観光客をつなぐ案内人である。家島の総合的な観光コーディネーターを養成し、地域の空き家をゲストハウスとして活用している。

2. 活動内容・成果

2.1 家島での活動内容

活動は計 4 日間行った。2024 年 9 月 12 日から 13 日は泊まりがけで、10 月 4 日と 10 月 25 日は日帰りで活動した。

初日である 9 月 12 日は FW 参加者同士でも初対面の人もいたため、自己紹介や中西さんのお話から始まった。その後の活動では、1 階と 2 階の床掃除（拭き掃除、雑巾がけ）、不要なものの片付けをした後、ベニヤ板張りされていた 2 階廊下の P タイ

ル貼りを行った。P タイル貼りはみんな初めての作業だったので、藤田さんに教えてもらいながら進めた（写真 1）。まず廊下の中心に沿う基準線を引き、ボンドを出してヘラで塗り広げた。内側から廊下の端に中心線に沿うようにタイルを詰めて張った。端の部分は残りの廊下の大きさに合わせてタイルを切ってから貼った。タイルは線の向きが交互になるように配置し、市松模様に見えるように工夫した。

この日は民家の空き家をリノベーションした宿である家島ヨカテラスに宿泊した。晩ご飯は島のお店で材料を調達してヨカテラスでカレーライスを作った。家島に初めて来た学生がほとんどだったので、島の散策も行った。翌日の 13 日は P タイル貼りの続きとワックスがけを手分けして行った。

10 月 4 日は日帰りで作業を行った。まず、古い棚の神棚と押し入れの仕切りを除去した。そして新しく作成する家具の構想を練った。改修している空き家は、学生がゼミ研修などで利用する施設を想定している。押し入れだったスペースにソファを作り設置することに決定した。ソファづくりを開始するにあたって、寸法を測り、原案を考え、材料を用意した。押し入れの寸法を厳密に測り、作れそうなソファの大きさを調べた。調べた寸法を元に、ソファ



写真 1 P タイル貼りの様子



写真2 木材を切断する様子



図1 環境人間学フォーラム ポスター

のデザインをみんなで考えた。人の身体に合ったソファの高さにこだわった。島では材料を用意するのも一苦勞である。なるべく元からある材料を使うように工夫した。みんなで考えた案を元に藤田さんがソファの設計図を書いてくれた。

10月25日はソファの制作を行った。柱や天板などに使用する木材をのこぎりで切断した。のこぎり

を使うので、疲れたら交代しながら進めた。全部の材料を切り出すのはなかなかの重労働であった。また、ソファに敷くマットを適当なサイズに切断して、マットカバーのサイズを調節した。最後に切り出した木材を、設計図を基に組み立てた。ビス打ちは初めての経験であった。

ソファの完成は授業の日で終わらなかったで、参加できる人で授業とは別に12月13日に作業を行った。10月25日の作業の続きであるソファの組み立てを行った。無事にソファを完成させることができた。

各作業日の昼食では、その日の朝に捕った魚のお刺身などをいただいた。普段は食べられない家島ならではのご飯が堪能できた。

2.2 フォーラム発表

これらの家島での活動について、12月5日に催された環境人間学フォーラムにてポスター発表を行った(図1)。ポスター発表に加えて、活動についての質疑応答も行った。様々な方からの質問や意見などから、活動を伝えることと同時に活動への理解を深めることができた。

3 今後について

今回の空き家改修では、改修後の空き家に学生が宿泊して現地調査などの拠点になることを目指した。そこで、宿泊者同士の交流空間をつくるため、元々押し入れであった空間に棚を併設したソファを設置することにした。普段では体験できないことを体験しながら、空き家の実態や改修の大変さ、家島の魅力を知ることができた。

4. 謝辞

今回の授業を行うにあたり、多くの方々にご指導、ご協力いただきました。家島コンシェルジュの中西さん、麻田さん、藤田さん、阪井さん、太田先生に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

引用文献

1)家島コンシェルジュ HP: <https://ieshimacon.com/>